

# 日本選手権は女子上田が初優勝、男子田山が2連覇4勝目

## NTTトライアスロンジャパンカップ・ランキングイベント最終戦 第13回日本トライアスロン選手権東京港大会速報

### NTTジャパンランキングチャンピオンは女子関根、男子山本良介に

10月21日(日)、東京・お台場で2007NTTトライアスロンジャパンカップランキングイベント最終戦・第13回日本トライアスロン選手権東京港大会が開催された。

本大会は今シーズンの最終戦であり、日本選手権とNTTジャパンカップシリーズチャンピオンの2大タイトルがかかる。さらに2008年北京オリンピックへの出場権が優勝すれば得られる、北京オリンピック大陸別代表選考会(アジア選手権)の日本代表選考会でもあり、国内の有力選手男女133名が集った。

午前8時40分スタートの女子は、古谷あかね(トヨタ車体)がスイムを1位で通過し、その後ろにスイムを得意とする中島千恵(トーション・日東紅茶・TEAM KEN'S)、村上真悠(千葉県連合)、浅沼美鈴(愛知県連合)、足立真梨子(トーション・日東紅茶・TEAM KEN'S)らが続く。

バイクに移ると、スイムのトップ集団の古谷、中島、浅沼、足立、西麻依子(埼玉県連合)、崎本智子(日本食研)、田中敬子(NTT東日本・NTT西日本・スカイタワー58)の7名が第1集団を形成。優勝候補の上田藍(シャクリー・グリーンタワー・稲毛インター)、関根明子(NTT東日本・NTT西日本)、井出樹里(トーション・日東紅茶・TEAM KEN'S)は第2集団に入った。

バイクの後半で16名となった第2集団は思うようにスピードが上がらない。最終周では、第1集団との差は2分10秒あまりまで広がった。

ランの前半は、スイムからの勢いのまま古谷が1位に。後続との差も徐々に広げ、初優勝かと思われた。しかし中盤、ランを得意とする上田、関根、井出が猛追。徐々に上田、関根が古谷を追い上げ、ラン3周目終了時には上田が1位、そのあとに関根が追う展開となった。

結局、関根は最後まで上田を捉えることができず、そのまま上田が2時間1分56秒のタイ



お台場の大観衆を背にスタートしたスイム

田山 寛豪  
(チームテイケイ)



今年はアジア選手権で優勝を逃して、調子が狂った。スイムが不完全燃焼の戦いが続き、苦しかった。9月の北京ワールドカップでスイムが復調し、この日本選手権につながられた。バイクで逃げようと思ったが果たせなかった。勝負にこだわって勝てたのがうれしい。

上田 藍  
(シャクリー・グリーンタワー・稲毛インター)



今年のアジア選手権では最後の競り合いに負けたので、スプリント勝負ではなく、ロングスパートしようと思っていた。そのため、3周目で仕掛けようとレース前から決めていた。スイム・バイクでできた2分10秒の差は、ランでひっくり返せると思っていた。

2007年度社団法人日本トライアスロン連合(JTU) オフィシャルスポンサー&オフィシャルパートナー



# 日本選手権は女子上田が初優勝、男子田山が2連覇4勝目

## NTTトライアスロンジャパンカップ・ランキングイベント最終戦

### 第13回日本トライアスロン選手権東京港大会速報

ムで初の日本選手権制覇を遂げ、2位には関根、さらに井出が3位に入った。

レース後上田は、「ランの3周目でスパートすると決めていた」と、予定通りの戦い方で勝利したことを語った。

午前11時ちょうどスタートの男子は、ワールドカップ北京大会でスイム2位と健闘した田山寛豪(チームテイケイ)がその力を発揮し、1位でバイクへ。その後を同じくスイムが得意の山本良介(トヨタ車体)、平野司(NTT東日本・NTT西日本)が追う。

バイク序盤は田山と山本良介が逃げたが3周目に後続に追いつかれ、第1集団は田山、山本良介、平野、福井英郎(トヨタ車体)、山本淳一(K'S-Y・グリーンタワー・稲毛インター)、杉本宏樹(チームテイケイ)、長谷川裕一(神奈川県連合)、疋田浩気(静岡県協会)を含めた8名で形成された。

優勝候補の一人と思われた細田雄一(ウイダー)は第2集団。バイク終盤、第1集団と第2集団の差は約1分23秒と広がり、その差が縮まらないまま、ランへと移った。

ランでも田山の勢いは止まらない。周回を増す度に2位との差を約20秒ずつ広げる快走を続け、そのまま独走状態をキープした田山が1時間49分17秒のタイムで、トップでフィニッシュ。結果は、「大勢の応援を味方に付けた」田山の2年連続、4度目となる優勝となった。

田山は、「今年は海外のレースで調子を保てなかった。何とか来年につながる優勝ができてよかった」と、コメントした。2位には後半で追いつけた福井が、3位には粘り強い走りでも杉本が入った。

また、NTTジャパンカップシリーズチャンピオンのタイトルは女子は関根、男子は山本良介。U23チャンピオンは女子田中、男子細田となった。

なお、レースの様子はフォトギャラリーでご覧になれます。



男子バイクの中盤は、山本淳一(中央)、福井(左)が第1集団を牽引

山本 良介  
(トヨタ車体)



優勝したかったが、ランの1周目で離されて、なさげなかった。せめて2位に入っていたら、納得できた。今年は蒲郡で優勝でき、このジャパンカップチャンピオンという結果は残せた。来年につながる成果なので、北京にむけて頑張りたい。

関根 明子  
(NTT東日本・NTT西日本)



スイム、バイクで遅れたが、ランで上田選手と前の選手たちに追いついた。そのとき、一呼吸入れてしまった。そのすきに上田選手にスパートを決められ、離されてしまった。海外の転戦が多かったが、これでジャパンカップは4度目のタイトルが取れたことが収穫。

2007年度社団法人日本トライアスロン連合(JTU) オフィシャルスポンサー&オフィシャルパートナー

